

中華人民共和国駐日本国大使館

Embassy Of The People's Republic Of China In Japan

CHINA-VI

<http://www.china-embassy.or.jp/jpn/> チャイ・ナビ

2018年増刊号

Panda杯全日本青年作文コンクール2018開催



い方向に向かうようになった。特に今年は李克強総理の公式訪日、安倍晋三首相の公式訪中を通じて、相互信頼を少しずつ深め、互いに協力のパートナーであり、脅威とならないという共通の意思を再確認し、今後の平和友好協力を再スタートさせた。さらに、両国政府は2019年を『中日青少年交流促進年』とすることを確定した。このような両国関係の大きな改善の勢いが、皆さんが中国との交流を行う上で、より良い環境となると思われる。このような状況をきっかけとして、皆さんが中国との交流を深め、拡大させ、さらには日本の多くの国民が中国との交流に参加することを期待している」と語った。

日本科学協会の大島美恵子会長は挨拶の中で、「日中両国の関係は今、あらゆる面で互いが歩み寄ろうとする姿勢が明確になりつつある。このような状況下で、次世代を担う若者たちが中国を訪れ、現地の様々な人と交流を経験する機会を作っていくことは、両国関係の未来にとって大きな糧となる」と述べた。

11月16日から22日、第5回Panda杯受賞者訪中団（21名の優秀賞・入選賞・佳作賞受賞者）は北京と成都を訪れた。こ

中華人民共和国駐日本国大使館、人民中国雑誌社、公益財団法人日本科学協会共同主催の「Panda杯全日本青年作文コンクール2018表彰式」が2018年11月15日、大使館で開催された。程永華大使、日本科学協会の大島美恵子会長などがゲストとして出席し、受賞者に賞を授与した。

同作文コンクールは2014年に始まり、今回で5回目。今回のテーマは「@Japan わたしと中国」で、応募資格は16-35歳の日本人。応募数は4年連続で伸び続けており、今年は昨年比で25.3%増の624点が集まった。最終的に、優秀賞10人、入選10人、佳作35人、団体賞3人が選ばれた。

程永華大使は挨拶の中で、「指導者から一般大衆に至るまで、両国の各界の努力により、昨年から中日両国の関係が良